

元気印の樹を植えて行きましょう！



グループリビング運営協議会会長
NPO 法人いぶりたすけ愛理事長
星川光子

運営協議会が発足して7年目となりました。2012年からのGLNET会報を読み返してみますと、グループリビング運営協議会名誉顧問の西條節子さんの「元気印の樹を植えて行こう！」という呼びかけに、さらなる元気が湧いてきました。

「いぶりたすけ愛」は西條さんの自立と共生の暮らしにあこがれ、ノウハウを惜しみなく分けさせていただき、GL「たすけ愛の家」を作って12年がすぎました。

以前、高校生がボランティア活動に来てくれて、生活者たちと楽しい時間を過ごしました。後日、「皆さんの元気な姿に感動して福祉の道を選びました。」と保健師の大学に合格したことを報告に来てくれたことがあります。元気印が若者の人生に大きな刺激を与えた、嬉しい経験です。これからも、西條さんの提唱する“元気印の樹を植えて行こう！”を受け継いでいきたいと思っています。

少子高齢社会は介護力の不足などのさまざまな不安を投げかけています。高齢者が地域力の要となって、高齢者、若者、子育てを助けて行かなければならない時が来ています。もっともっとグループリビングの「自立と共生」の暮らしを広げて、元気印でいたいものです。

これからも、元気印の樹を植えて続けて行きましょう！

たすけ愛の家、地震についてのご報告

9月6日、北海道胆振地方を震源とした大きな地震が発生しました。たすけ愛の家は、震源の近くにありましたので心配になり星川さんに連絡しました。振れが大きく怖かったけれど、建物には被害がなく、居住者も皆さんお元気とのことでした。電気は翌日7日に復旧したそうです。水道は止まることがなかったので、助かりましたと言われていました。安心しました。(事務局)

グループリビングを作っていくと、どんなよいことがある？



NPO 法人グループリビング川崎
理事長 原 眞澄美

COCO 宮内ができて 15 年が経ちました。研究会を始めてからが、17 年です。50 歳になったばかりで参加した人たちもそろそろ 70 歳です。

経過の中で、失ったものもたくさんあります。数人の仲間、若さとか。でも、それ以上に手にしたものはたくさんあります。新しい仲間、新鮮な考え方、たくさんの喜び。

そう考えると、グループリビングは一緒に住む生活者の人達だけの利益のためにあるのではなく、それを支える人たちのためにもあるのだと思います。

で、それって人間同士が大昔から備えている「助け合って人生を送る」本能みたいなもの？ 本当は、人は皆、その本能を発揮したい。だけど、発揮するチャンスがない、のではないのでしょうか。

高齢者が増え、介護保険がアップアップしてきた昨今、介護予防の施策がいろいろと考えられていますが、元気な高齢者が長く元気であるためには、グループリビングのようなところで人の役に立つ営みを続けていくのが、この頃、よく使う、ウィン・ウィン、いやウィン・ウィン・ウィン（支援される人・支援する人・介護保険）になるのではないのでしょうか。

元気である限りこの取り組みを続けていきたいです。いや、少し、病気とか持っていて、家族のことで悩んでいても、本来の仕事が大変な人でも、何かに参加することにより、違う角度で現実を見直し、新しい世界が生まれると確信しています。

焼津ミニシンポジウムを開催しました。



7月22日(日)に静岡県焼津市小川公民館で焼津ミニシンポジウムを(一社)優良中古住宅流通推進協議会と共催で開催しました。参加人数は43名でした。その後、焼津の新しいグループリビングCOCO下小田の見学会が行われました。

焼津ミニシンポジウム内容

第一部 グループリビングの成り立ちと発展

- グループリビングって何？
- グループリビングの成り立ちと展開
- グループリビングの発展
- グループリビングの概要

司会 大江守之

登壇者(五十音順)

小島美里・星川光子・土井原奈津江・宮野順子

第二部 グループリビング 暮らしのスタイル

- 会場の質問に登壇者が回答を行いました。

司会 大江守之

登壇者(五十音順)

井上肇・大江守之・小島美里・星川光子・中村雅充・坪内孝介

第7回定時総会を開催しました。

第7回定時総会が、7月21日14時30分より静岡県焼津市COCO下小田において、正会員、正会員26人中15人（内委任状7人を含む）出席のもと、真摯なる討議が行われ、すべての議案において可決承認されました。

今年度は、役員改選の年にあたり、新しい役員3人が選出されました。また、会長は、星川光子氏が再任となりました。詳細は13頁をご覧ください。

2017年度 事業報告書

I 本会の現況

1 会員の異動

本年度の入会並びに退会及び会員数は次のとおりである。

	正会員 (団体)	正会員 (個人)	賛助会員 (団体)	賛助会員 (個人)	学生 会員	合計
2017.3.31	14	12	1	1	2	30
入会	1	1	3			5
退会	1	1				2
会費納入無	4	2			1	7
会員種別変更*	-1	1	1		-1	0
2018.6.31 会計人数	10	11	5	1	0	27
2018.3.31 現在会員数	13	13	5	1	1	33

2 役員の実員

理 事 7名（うち会長1名）

3 第6回定時総会

○定時総会を次のとおり開催した。

日時 平成29年7月23日（日） 15時～17時

場所 NPO 法人いぶりたすけ愛

出席者数 16名（うち委任状6人を含む）

○議決承認事項

1) 平成28年度事業報告について

2) 平成29年度事業計画について

4 役員会議

○第7回理事会を次のとおり開催した。

日時 平成29年7月23日（日） 15時～17時

場所 NPO 法人いぶりたすけ愛

出席者数 7名(うち委任状1人を含む)

○議決承認事項

- 1) 平成28年度事業報告について
- 2) 平成29年度事業計画について

II 目的事業

1 グループリビングへの支援・相談活動

①JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」(事業主体 NPO 法人暮らしネット・えん)に協力

- 1) 平成28年度 JKA 補助事業 自己評価、完了報告書、広報資料作成等
- 2)平成29年度 JKA 補助事業 企画・運営、ワークショップ開催、状況報告書等作成等
- 3) 平成30年度 JKA 補助事業 企画、申請書作成等

②グループリビングを作りたい人、入居したい人、興味を持つ人、マスメディアへの対応

- 1) グループリビングを作りたい・興味をもつ個人・グループ 4件
(藤沢市1・大阪府1・川崎市1、)
- 2) グループリビングを作りたい・興味を持つ法人 3件
(ホテル運営者1・不動産事業者1・介護事業者3)
- 3) メディア3件
(共同通信・テレビ朝日・雑誌「からだにいいこと」(祥伝社))

2 ワークショップの開催協力

平成29年度 JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」(事業主体 NPO 法人暮らしネット・えん)に協力。

○川崎ワークショップ・おでんせ中の島見学会を以下のように開催した。

日時 3月3日(土)
場所 おでんせ中の島(神奈川県川崎市)
参加者 31名

3 グループリビングの研究調査協力

平成 29 年度 JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」（事業主体 NPO 法人暮らしネット・えん）に協力。

○高齢者小規模共同居住の運営者や潜在的運営者を調査し、報告書Ⅰ（研究テーマ・調査研究編）、報告書Ⅱ（報告会記録編）を作成。

4 ホームページの運営協力

○HP「自由な暮らし。自分らしく。ともに住まう。」を更新。

<http://www.glnet-groupliving.org/>

*平成 29 年度 JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」（事業主体 NPO 法人暮らしネット・えん）に協力。

○HP「東北にグループリビングの暮らしを」を維持。

<http://www.group-living.org/>

*WAM 助成で作成のため 5 年間維持が必要。

5 会報の運営協力

会報の作成と発信

年 3 回（メール等で関係者に配信）

*平成 29 年度 JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」（事業主体 NPO 法人暮らしネット・えん）に協力。

Ⅲ 今後の課題

- (1) 会員数は、近年徐々に増加している。平成 29 年度は平成 28 年度と比較すると新規入会 5 で退会 2 となり 3 増加した。入会した会員の内訳はグループリビングの運営者 2、高齢者小規模共同居住の運営者 1、グループリビングをつくりたい人 2 であった。グループリビングを作ること、運営することに対する実践的な支援や情報提供が十分にできるように努力することが求められる。一方で高齢者住宅を探している人やグループリビングに住みたい人など地域住民に向けて、啓蒙普及活動や情報提供を行うことは、会員数を増やすとともにグループリビングの入居率を上げ、グループリビングを増やす可能性もあるため、今後力を入れることが必要である。
- (2) 平成 29 年度の活動、前年度の繰越金が少なかったため、ワークショップ参加費の値上げや寄付（訪問記などの売り上げ）で収入を増やし対応した。今年度も同様の方法で対応する必要がある。活動の安定のためには、今後さらに会員が増加するように努力が必要である。
- (3) JKA 補助事業「高齢者グループリビングの社会普及に向けた実践的調査研究事業」は 3 年計画の 2 年目を終えた。これまで本協議会で蓄積した知見をベースに、全国の高齢者の小規模共同住宅や実力のある地域密着型の事業者に対して調査研究を行うことができた。今年度は引き続き調査研究を行うとともに、3 年間の集大成として良質な汎用性のあるモデルを社会に向けて提示することが求められる。
- (4) 協議会の活動は今年で 7 年目となる。この 7 年間で協議会のネットワークが強くなり、協力体制もできてきた。また、グループリビングは近年テレビや新聞で取り上げられることが多くなったが依然として知名度は低い。協議会の活動をさらに活発化させグループリビングの暮らし方を社会に広げていくため、新たな活動を検討する時期にきている。

2017年度 グループリビング運営協議会収支報告書

2017年4月～2018年3月末日（整理期間2018年5月末日迄）

収入の部

▲印減額（単位:円）

科目	決算額	予算額	増減	備考
年会費	370,000	350,000	20,000	
寄付	112,630	80,000	32,630	本売上等・WS参加費、個人寄付等
前期繰越収支差額	64,224	64,224	0	
収入合計（A）	546,854	494,224	52,630	

支出の部

▲印減額（単位:円）

科目	決算額	予算額	増減	備考
臨時備益費	108,000	100,000	8,000	JKA書類作成・事務等
交通費	0	5,000	▲5,000	JKA事業補助対象外交通費
通信費	41,001	40,000	1,001	郵送代、HPドメイン更新費用、電話代等
支援費	352,730	328,000	24,730	JKA事業自己負担分
雑費	9,278	10,000	▲722	茶菓子・文具等
予備費	10,000	5,000	5,000	
支出合計（B）	521,009	488,000	33,009	
次期繰越収支差額 （A）－（B）	25,845	6,224	19,621	

監査報告

2017年度 監査報告

グループリビング運営協議会

会長 星川 光子 様

監 事 宮野 順子



1. 監査の概要

2018年6月14日、メール添付により資料を送付いただき、2017年度の決算書類及び業務執行について監査を行いました。

2. 監査結果について

監査にあたり、決算書及び帳簿、通帳、領収書、伝票などを確認し、間違いのない適正な執行を確認しました。

3. 業務執行について

2017年度に協力したJKA補助事業「高齢者グループリビングの社会普及に向けた実践的調査研究事業」では、これまで本協議会で蓄積した知見をベースに、全国の高齢者の小規模共同住宅や実力のある地域密着型の事業者に対して調査研究を行い、多くの活動の成果が得られました。

4. 今後の課題

引き続き、JKA補助事業の調査研究を通して、良質な汎用性のあるモデルを社会に向けて提示するとともに、他の実践的な高齢者住宅と連携し、グループリビングの普及啓蒙活動を活発させ、会員数の増加を図っていくことが求められます。

以 上

2018 年度 事業計画

I 本会の運営

1 会員の増強

JKA 事業の活動を通して会員の増強策を図る。

会員を通しての募集に力を入れる。

2 役員、顧問の現員

理事 8 名（内、会長 1 名、理事 7 名）

*第 6 号議案 定款を変更し人数を役員の人数を 7 人～10 人とする。

3 第 7 回定時総会

○定時総会を次のとおりに開催する

日時 平成 30 年 7 月 21 日（土） 14 時 30 分～15 時 30 分

場所 COCO 下小田（静岡県焼津市）

4 役員会議

○第 8 回理事会（メール審議）

日時 平成 30 年 5 月 25 日（金）

議決承認事項

1) 焼津ワークショップの開催決定

2) 新任役員 2 人（上野勝代氏・土井原奈津江氏）の選定

○第 9 回理事会（メール審議）

日時 平成 30 年 7 月 15 日（日）

議決承認事項

1) 平成 28 年度事業報告について

2) 平成 29 年度事業計画について

3) 定款の変更（役員の数）

4) 新任役員 1 人（井上肇氏）の選定

Ⅱ 目的事業

1 グループリビングへの支援・相談活動

① JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」

(事業主体 NPO 法人暮らしネット・えん)に協力

- 1) 平成 29 年度 JKA 補助事業 自己評価、完了報告書、広報資料作成等
- 2) 平成 30 年度 JKA 補助事業 企画・運営、シンポジウム開催、状況報告書等作成等
- 3) 平成 31 年度 JKA 補助事業 企画、申請書作成等

② グループリビングについての相談・見学対応等

2 シンポジウムの開催

○焼津ミニシンポジウム

日時 平成 30 年 7 月 22 日 (日) 9 時 30 分～11 時 45 分

場所 小川公民館 (静岡県焼津市)

○シンポジウム

平成 30 年度 JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会を作る活動」(事業主体 NPO 法人暮らしネット・えん)に協力。

3 年間の調査研究の集大成として研究成果を発表する。

日時 平成 31 年 3 月初旬

場所 未定 (東京都または神奈川県)

3 調査研究

平成 30 年度 JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」(事業主体 NPO 法人暮らしネット・えん)に協力

4 ホームページの運営

平成 30 年度 JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」(事業主体 NPO 法人暮らしネット・えん)に協力

・記事作成、記事更新等

5 会報の運営協力

平成 30 年度 JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」(事業主体 NPO 法人暮らしネット・えん)に協力

・年 3 回発行

6 その他

2018 年度活動計画予算案

2018 年 4 月～2019 年 3 月末日（整理期間 2019 年 5 月末日迄）

収入の部

▲印減額（単位:円）

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
年会費	350,000	350,000	0	
寄付	150,000	80,000	70,000	本売上等・シンポジウム参加費、個人寄付等
前期繰越金	25,845	64,224	▲38,379	
収入合計（A）	525,845	494,224	111,621	

支出の部

▲印減額（単位:円）

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
臨時備益費	120,000	100,000	20,000	シンポジウム対応・JKA 申請書類作成・完了報告書等作成・見学者対応等
交通費	5,000	5,000	0	
通信費	41,000	40,000	1,000	HP ドメイン更新費用、電話代、郵送代、等
支援費	280,000	328,000	▲48,000	JKA 事業自己負担分（264,000）、予備費
雑費	20,000	10,000	10,000	文具・インクカートリッジ、茶菓子代等
予備費	5,000	5,000	0	
支出合計（B）	471,000	488,000	▲17,000	
次期繰越金収支差額 （A）－（B）	54,845	6,224	48,621	

定款の変更

第3章 役員等

(種別及び定数)

第12条 本協議会に役員を置く。

(1) 理事 5名以上7名以下



第3章 役員等

(種別及び定数)

第12条 本協議会に役員を置く。

(1) 理事 7名以上10名以下

役員選出

グループリビング運営協議会定款に定める役員の規定に基づき以下のように選出しました。なお、会長の役割は、監事を含めて役員の互選により、星川光子氏が選出されました。

(五十音順)

役名	氏名	所属	備考
会長	星川 光子	NPO 法人いぶりたすけ愛理事長	再任
理事	石原 智秋	NPO 法人てのひら理事長	再任
理事	井上 肇	NPO 法人結いのき専務理事	新任
理事	上野 勝代	京都府立大学名誉教授	新任
理事	大江 守之	NPO 法人 COCO 湘南理事長・慶應義塾大学名誉教授	再任
理事	小島 美里	NPO 法人暮らしネット・えん代表理事	再任
理事	中村 雅充	NPO じゅげむ館きたみ代表	再任
理事	土井原奈津江	慶應義塾大学 SFC 研究所	新任
監事	宮野 順子	京都光華女子大学短期大学部講師	再任

相談役	西條 節子	NPO 法人 COCO 湘南相談役	再任
-----	-------	-------------------	----

事務局	土井原奈津江	慶應義塾大学 SFC 研究所上席所員	再任
-----	--------	--------------------	----

以上

来年3月にシンポジウムを行います！

本年度も JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動 高齢者グループリビングの社会的普及に向けた実践的研究」を NPO 法人暮らしネット・えんに協力して行います。

この事業は3年計画で、今年度はその3年目に当たります。来年3月初旬にシンポジウムを開催し研究成果を発表する予定です。日程が決まりましたら、HP やメールでお知らせいたします。

グループリビング運営協議会 会員募集中

グループリビングの暮らし方や運営について、一緒に考えていくことのできる仲間、情報提供してくれる仲間を作りませんか。

■グループリビング運営協議会

連絡先 土井原奈津江

NPO 法人いぶりたすけ愛内

連絡先 natsue@sfc.keio.ac.jp



編集後記

以前、COCO 湘南元理事長の西條節子さんから、作曲家ジュゼッペ・ヴェルディが音楽家仲間の恵まれない高齢期を危惧し、晩年資財を投じて音楽家のために無料の老人ホームを作ったことを聞きました。ミラノに行く際には、ぜひ、訪ねてみたいと思っていましたが、この夏のイタリア旅行で実現しました。その建物はミラノの中心のドーモから地下鉄に乗り10分ぐらいのところにあります。建物は3000㎡で、ヴェネチアン洋式で作られ、中庭を備えた素晴らしいものでした。現実的な話になりますが、施設運営資金として、ヴェルディの死後、作品の著作権が切れる1962年までの50年間の収益が積み込まれたそうです。その後は、多くの篤志家が寄付をしていますが、最近は居住者も少しの負担はしているようです。さらに、音楽を専攻する学生の受け入れを始め、若者と高齢者が一緒に住んでいます。玄関近くの部屋で、東洋人らしき女子学生が素晴らしい歌声でオペラの練習をしていました。きっと館内に鳴り響くこのような音楽は、音楽家たちの心を癒していることでしょう。(な)

編集委員 小島美里 土井原奈津江



この会報は公益財団法人 JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会を創る活動」で運営されています。